

アジアブリッジプログラム (ABP-SU) について

平成 27 年 1 月 9 日

国際交流センター 准教授 ライアン優子



静岡とアジアの架け橋に

Be the bridge between Shizuoka and Asian countries

1. アジアブリッジプログラムと NIFEE

アジアブリッジプログラム (ABP-SU) は、静岡大学の工学部が平成 21 年度に開始した NIFEE プログラムを元に作られたグローバル人材育成プログラムです。先駆的な事例で、教育行政や日本留学関係者に評価の高かった NIFEE を発展させ、アジアブリッジプログラムとし、大学全体で取り組みます。

● NIFEE プログラムと ABP の主な相違点

- ◇ 全学 (学士：6 学部、修士：4 理工系研究科＝新総合科学技術研究科) の取組
- ◇ 大学院修士課程を含む (留学生向けには英語のみで学位取得可能なコース)
- ◇ 日本人を対象とした副専攻プログラムを開講
- ◇ 重点国 (学士課程の対象国：ベトナム、タイ、インドネシア) にインドを追加
- ◇ 産学連携の強化：産業界の講師派遣、奨学金の設営、留学生の県内企業への就職支援
- ◇ インターンシップの実施

● アジアブリッジプログラム (ABP-SU) : 平成 27 年 10 月開始

	学士課程	修士課程
留学生	40名 * 全6学部 ・ 現地入試/初学期教育 (日本語集中学習・基礎科目) ・ 日本語による専門教育 ・ 日/英によるABP科目	40名 * 理工系4研究科 ・ 英語のみで学位取得可能。 ・ 初級日本語教育 ・ 英語による専門科目+ABP科目履修
	【共通事項】 ✓ 秋季入学 ✓ 検定料・入学料免除、1年目授業料の全学免除* * 2年目以降の授業料は成績に応じて全免、半免の措置あり。 ✓ 県内企業にてインターンシップ ✓ 企業見学、企業との交流会等、在学時からキャリア支援	
日本人学生	60名 * 全6学部 ・ 文理融合、全学部横断型プログラム	40名 * 理工系4学科 ・ H27年度設置「総合科学技術研究科」のプログラム
	【共通事項】 ✓ ABP-SUを副専攻として履修 ✓ 語学レベル TOEIC600 ✓ 英語によるABP科目履修 ✓ 留学生との協働学習コミュニティの形成 ✓ 県内企業の海外拠点インターンシップ / 協定校等の海外プログラム	

2. アジアブリッジプログラムと大学の国際化推進事業

アジアブリッジプログラムは、文部科学省の平成 25 年度「国立大学改革強化推進補助金」に採択された事業の一部です。同事業の名称は「全学的な教育改革・組織改革によるグローバル人材育成機能の強化ターゲット・アジア人材育成拠点の構築」であり、事業内容には、アジアブリッジプログラムのような人材育成プログラム以外に 以下が含まれます。

- 地元企業等と連携するアジア人材育成拠点と全学教育マネジメント体制の構築
 - 教育研究組織の柔軟な編成と運営を可能にする教育組織と教員所属組織分離
 - 人材育成に係る強みと特色を活かした人材資源の再配分による全学的な教育研究組織の再編成
- また、平成 26 年度から同事業に関連して各部局との連携で進めている主なプロジェクトは以下です。
- インターアカデミア・アジア（静岡大学のアジア協定校のネットワーク）（写真下）
 - 海外事務所の運営強化
 - 海外同窓会活動の発展
 - ABP 企画連絡会議の設立、運営
 - 海外協定校等教員招聘プログラム
 - 外国人教員、国際経験豊富な教員の採用による教育・運営体制の国際化
 - 国際関連の F D 及び S D 活動



事業全体としては、大学の教育と運営体制の国際化を図るとともに、受け入れ留学生と海外経験を積む日本人学生を増やし、グローバル人材を地域に輩出することで、地域と一体となったアジアを中心とした国際化の推進を狙いとしています。

3. アジアブリッジプログラムと産学官連携

2014 年 7 月に開催したアジアブリッジプログラム開設記念講演会には、静岡県内企業、自治体等から 120 名が出席し、同プログラムの産学官連携を重視した「オール静岡による人材育成」という側面をアピールする機会となりました。現在、同講演会の参加企業を中心に ABP 企画連絡会議（仮）を通して協議を継続し、ABP-SU における産学官連携の体制、奨学金、寮等の留学生受入環境整備等を検討しています。

海外同窓会活動においても産学官連携を重視し、2014 年 11 月にタイ、バンコクで行われた第 2 回静岡大学海外同窓会タイ支部の集い（写真右）では、静岡県の関係者や、静岡県内企業のタイ事務所の方々を集め、静岡大学の元留学生との交流を深めました。



アジアブリッジプログラムでは、留学生はインターンシップが必修であり、日本人学生は海外インターンシップに参加することができます。また、県内の企業人講師による授業、将来の就職を見据えた企業との交流会等を実施することで、日本有数の産業集積地である静岡県の特徴を生かした、産学官連携による学習環境づくりに努めます。

4. 学内の皆様への連携・協力依頼

アジアブリッジプログラムでは 2015 年 10 月のプログラム開始に向けて、留学生の受け入れ・日本人学生の履修支援、インターンシップを含む一連の教育プログラムの実施等、多くの側面で取組体制の整備が必要となっています。全学で取り組む事業として、全部局、部署の教職員に関係のあるプログラムという認識のもとに、何卒、皆様の連携、協力、ご支援をお願いいたします。